2022, ver. 1.0, Reaffirmed Apr. 2023, ©AKEBONO-HP

月経以外の出血が心配な方へ

月経以外の出血は、子宮そのものの異常の場合とそうでない場合があります

子宮そのものに筋腫やがんなどの病気はなく、子宮外妊娠や流産など妊娠の異常でもないのに子宮体部（子宮内膜）からの出血が続いている状態のことを機能性子宮出血といいます。いわれる「ホルモンバランスの乱れによる出血」といわれることも多く、あらゆる年代の女性でみられますが、卵巣の働きが不安定な思春期と更年期で比較的多くみられます。

更年期の女性が不正出血を繰り返す場合には、子宮筋腫や子宮がん（頸がん、体がん）などが隠れていることがあります。子宮に異常があっても一回の検査でははっきりしない場合もあり、重要な病気を見落とさないためにも出血の原因がはっきりするまで、検査をくりかえす場合もあります。

思春期など若い女性の機能性子宮出血の特徴

はじめて月経がきて５年程度の若年女性にみられる不正子宮出血の大部分は、卵巣の機能が不十分なための無排卵周期による出血であり、この年代では子宮筋腫やがんはほとんどありません。

区別の必要な状態には、
①子宮や膣の先天的異常に伴う場合
②膣内の異物や外傷が原因になる場合
③まれに予期していない妊娠（特に子宮外妊娠や流産など異常妊娠）が原因になる場合などもありますので出血の経過や、出血にともなう他の症状などをよく確認することが重要です。

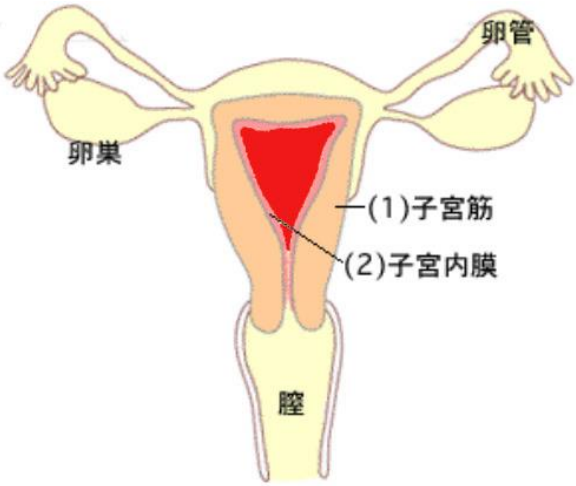

図1.子宮の構造（(1)子宮筋と(2)子宮内膜）

婦人科特有の「内診」は若年者には難しい場合もあるため、可能な範囲で膣内の分泌物の検査や、腹部超音波検査、必要な場合は MRI 検査などを行います。また、貧血、ホルモンの状態、出血しやすくなる血液の病気を伴っていないかなどを確認するため、血液検査が必要になる場合もあります。

「無排卵周期」の診断は排卵の有無を確認することが必要で、基礎体温を測定・記録していただくことも大事です。

更年期女性の機能性子宮出血の特徴

思春期と同様に、卵巣の働きが不安定であることによる無排卵周期による出血が多く、まれに予期せぬ異常妊娠による出血もありますが、年齢的に子宮筋腫や子宮がんにともなう異常出血の可能性もありますので、内診・経腟超音波・細胞診（子宮頸がん・体がん）などのチェックをぜひお受けください。